

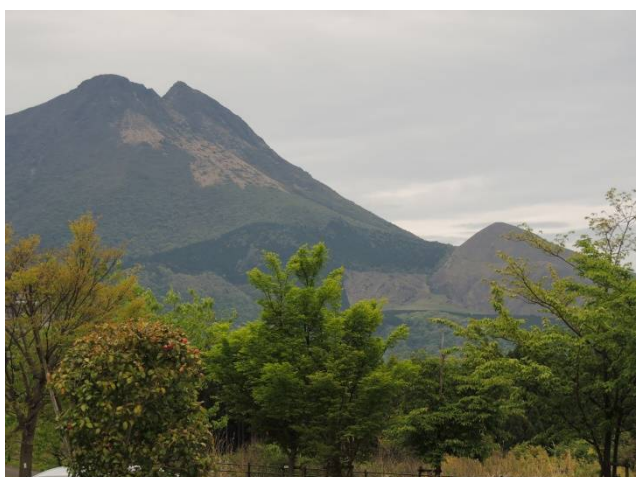
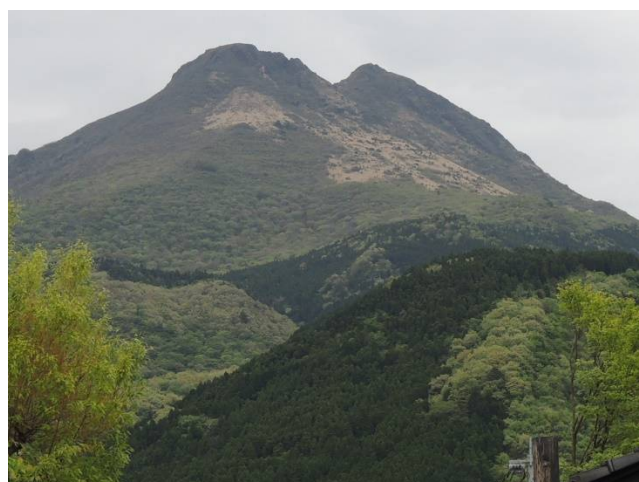
日本縦断 2万Km ツーリング写真集

PART3 九州編

門司港レトロ







由布岳



金鱗湖



金鱗湖の朝

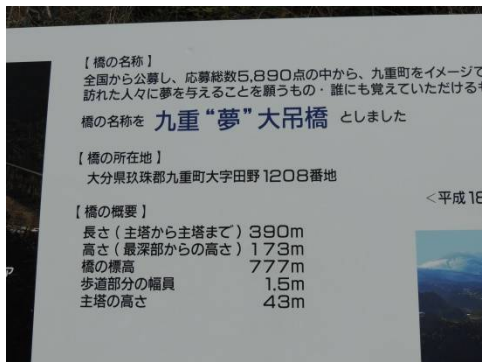


金鱗湖について

1. 金鱗湖名の由来 昔は湖と言わず池と言ひ、由布岳(1584m)の下にある池という意味から、由布岳の「由布」を省略し、更に「岳の下」を「岳ん下」と発音して「岳ん下ん池」と称した。明治17年大分の儒学者、毛利空桑が池のそばの露天風呂(茅葺き屋根)の岳ん下ん湯通称「下ん湯」から湖面を眺めていると魚が飛び跳ね、鱗がおりしもの夕日に映えて金色に輝く様を見て「金鱗湖」と名づけられる。

2. 金鱗湖の概要 やや長方形をして長辺約100m、短辺約70m湖底は緩やかな「すり鉢」状になって居り、最深部は、湖の山の手側にあつて約2mである。水の流入は下ん湯の横、ハエ川の温水(30度以上)と天祖神社境内の湧水、それに湖底深部にある湧水の供給から成り立っており、1日約23,300㎡が流出して大分川の源流となっている。生息する魚は、鯉、鮒、ハヤ、うなぎ、ナマズ、テラピア(豊後鯛)、グッピー、すっぽん亀、石亀等です。

3. 由布盆地の朝霧 朝霧は、秋から冬にかけ、晴れて冷え込みのきつい風がない朝、由布盆地を霧の海に沈めてしまう。この現象を狭霧台(野々草台上)や蛇越し峠(川西地区)からの眺望は、まさに天下一品である。朝霧発生の主因は金鱗湖から流れ出る川の水蒸気であると言われている。









阿蘇神社



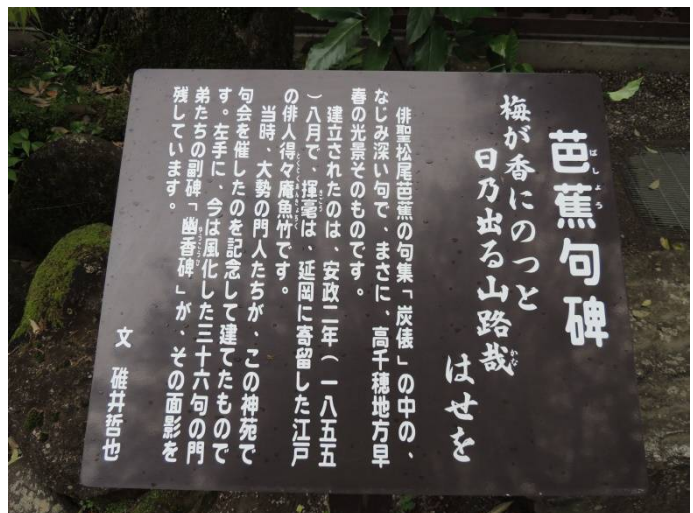
熊本神社



阿蘇山 中岳第一火口







高千穂峡



高千穂の山々



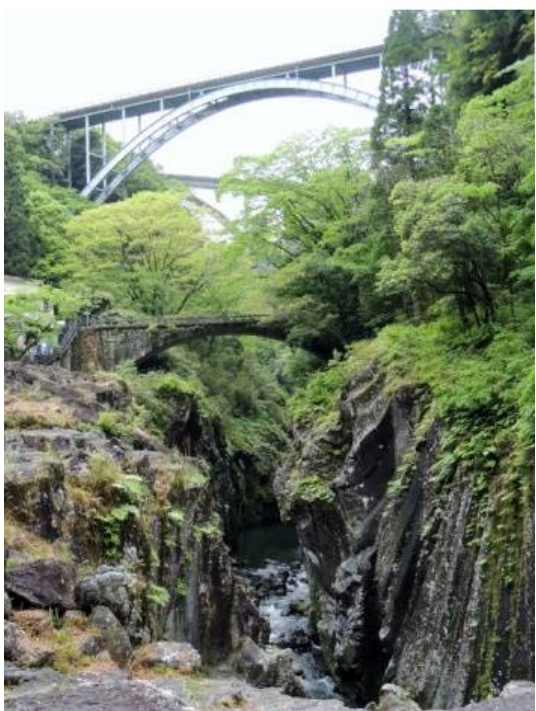


草千里ヶ浜

白川水源



高千穂神社





きはち ちからいし
鬼八の力石 (重量約200トン)
前方の大きな石が鬼の力石です。高千穂神社の祭神三毛入野命は弟の神武天皇とともに大和に行かれますが、伝説では再びお帰りになり、高千穂郷一帯で悪行をはたらいていた鬼八を退治し、この地を治めたといわれています。この時、鬼八が三毛入野命に投げ、力自慢をしたという石といわれています。



天岩戸神社



天安河原



通潤橋

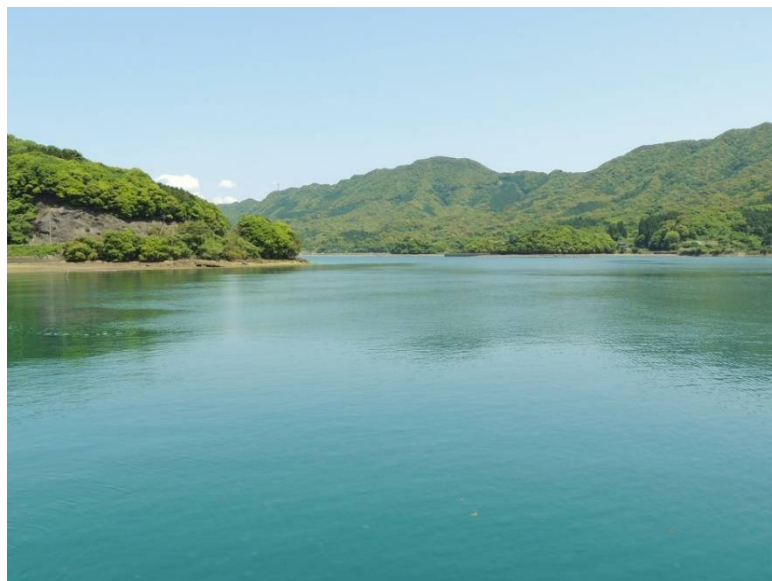
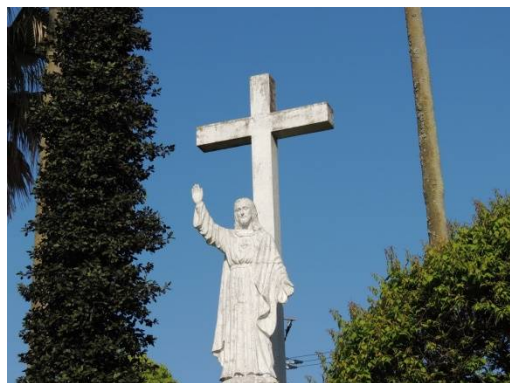




天草パールライン







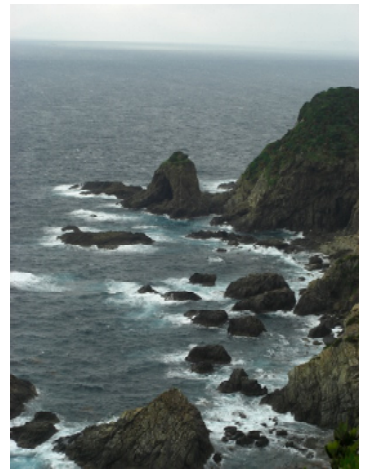
天草 天長フェリー 船上にて



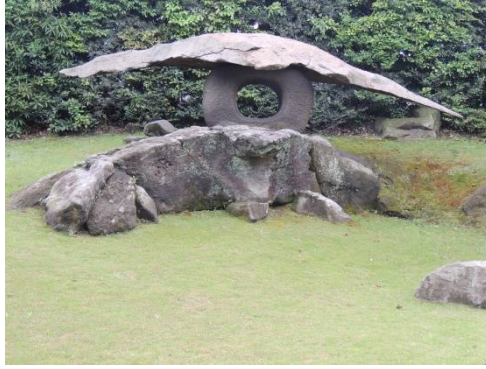
長崎鼻



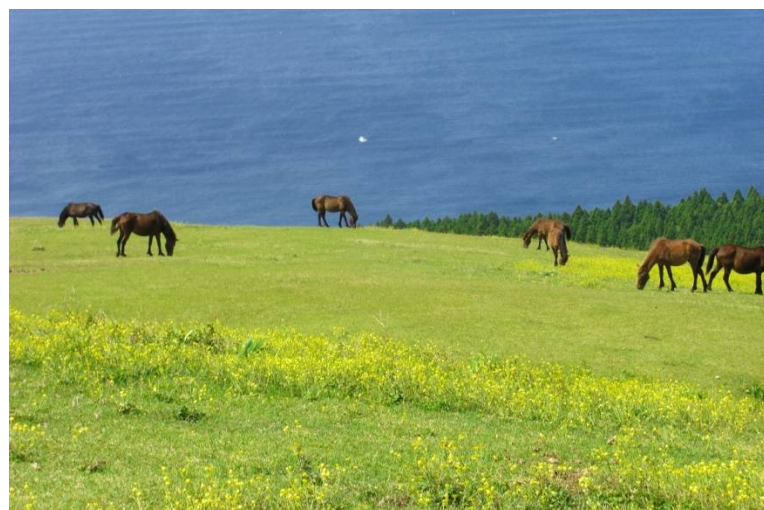
佐多岬（最南端）



磯庭園



都井岬 灯台





日南海岸国定公園







青島パームビーチのサンセット



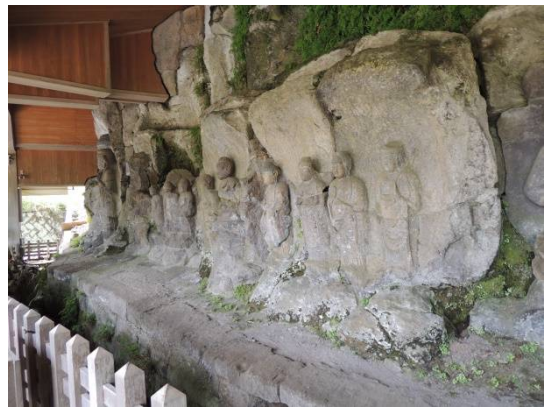
国宝 白杵石仏

本日は、ようこそ白杵石仏をご参拝くださいました。
この白杵石仏は、すべて切り立った岩肌に彫られた
磨崖仏で、これまでは国の「特別史跡」と「重要文化財」
の二重指定を受けていましたが、保存修理工事を終えた
平成7年6月に、磨崖仏としては、全国で初めて「国宝」
の指定を受けました。

伝説によると、この白杵石仏は今から千四百年前
（飛鳥後期から奈良時代）真名野長者の名で親しまれた
「炭焼小五郎」が、亡くなった娘の供養に中国の天台山に
黄金三万両を献上して、そのお礼に來られた蓮城法師から
インドの祇園精舎の話を知り、都から木彫りの仏師を
大勢招いて彫らせたといわれています。

ご参拝の皆様、諸願成就に是非お参り下さい。

合掌





Part3 九州 終わり